

彗星は「内惑星」（地球よりの太陽側の惑星）の一つ、金星の見え方に似ています。常に太陽に近い金星は、明け方に見える「明けの明星（あけのみょうじょう）」と、夕方に見える「宵の明星（よのみょうじょう）」があり、決して真夜中に見えることはありません。今見えている「紫金山・アトラス彗星」は「宵の明星型」の見え方で、夕方の西の空に見えています。

実際は彗星は、昼間から太陽よりも少し東寄り（斜め左上）に存在するのですが、太陽光が邪魔をして確認できません。太陽が沈んでだんだん暗くなってくると、太陽が沈んだ地点の左上に少しずつ姿を現すのです。「宵の明星型の彗星」の観望は、ちょうど「一番星探し」に似ています。

日没後の「まだ明るい空の状態、またはその時間帯」を「薄明（はくめい）」といいます。薄明には「市民薄明」→「航海薄明」→「天文薄明」の3段階があります。本格的な天体写真を撮るには、日没後1時間以上あとの

「天文薄明終了」まで待たなくてははいけません。しかし、それを待っていると彗星自体が沈んでしまうので、何としても薄明継続中に彗星を探し出して、撮影する必要があるというわけです。

私はこの日、狭山湖（埼玉県所沢市）の築堤で彗星の出現を待っていました。狭山湖にはそういう人が大勢いて、「我こそは一番に彗星を見つける！」という雰囲気は漂っていました。最初に彗星を「ゲット」したのは、私から3人ぐらい離れた若い男性でした。「白い雲と薄い雲の間に見えた！」と叫んだので、双眼鏡で確認すると確かに彗星でした。すぐに標準レンズ（50mmレンズ）をその雲間に向けてシャッターを切ると、コマ（彗星本体）も尾もしっかり写っていました！その後カメラを構えた人も、散策の人もごっちゃになって大勢で大騒ぎ。実に楽しい「狭山湖彗星大観望会」になってしまいました。

（2024年10月15日

埼玉県所沢市狭山湖築堤）

